

02、正しい情報を得る



市から配信される情報を確認

市公式 LINE やメールマガジンでは、さまざまな情報を発信しています。警報や避難情報など、災害に関することもお知らせしているので、ぜひ登録してください。

市公式 LINE

友だち追加ボタンを押して登録してください
※事前に LINE 利用登録が必要



メールマガジン

読み取れない場合は、
t-soja@sg-m.jp に空メールを送信し、登録してください



防災サイトやテレビなどで危険を確認

おかやま防災ポータル (岡山県)
県内の雨量情報や河川水位情報、河川カメラ情報などをリアルタイムで確認できます



おかやま防災ポータル

キキクル (気象庁)

大雨による災害（土砂災害、浸水害、洪水害）の危険度を5段階で表示。防災気象情報発表時に、どこで危険度が高まっているか地図上で確認できます



キキクル

川の防災情報 (国土交通省)

避難の判断材料になる雨や川の状況、ダム放流量などをリアルタイムで配信。河川の監視カメラ映像や水位情報などが確認できます



川の防災情報

テレビ、ラジオ

気象情報や、データ通信 (d ボタン) を利用して情報が入手できます。また、小型ラジオがあれば避難行動時にも情報を得られます

気象庁が線状降水帯の発生予測をスタート

気象庁は6月から、豪雨災害の要因となる「線状降水帯」の予測情報をおよそ半日から6時間前に発表する取り組みを開始しました。発生の恐れがある場合、「中国地方」など全国を11ブロックに分けた地域単位で発表されます。線状降水帯は短期間で集中的な豪雨をもたらす

もので、平成30年に総社市にも大きな被害をもたらした西日本豪雨の際にも確認されました。現在の技術では正確な予測が難しく、予測情報の発表がなくても線状降水帯が発生する場合があります。そのほかの気象情報と併せて活用し、避難の判断などを行きましょう。

03、避難情報に従って行動する



災害発生の危険度や避難情報は、5段階の警戒レベルでお知らせします。レベル3が発令されれば避難に時間が掛かる人が避難を開始、レベル4では、危険な場所から全員が避難する必要があります。レベル5は災害が発生している状況です。避難ができなかった人は、自宅の少しでも安全な部屋に移動するなど、命を守る行動をとってください。

高
↑
危険度
↓
低

警戒レベル	避難情報など	とるべき行動
5	緊急安全確保	命の危険。直ちに安全確保
～警戒レベル4までに必ず避難～		
4	避難指示	危険な場所から全員避難
3	高齢者等避難	危険な場所から高齢者や障がい者などは避難
2	大雨・洪水・高潮注意報	避難行動を確認
1	早期注意情報	最新情報に注意

防災特集

“もしものとき”への備え

できていますか？



毎年、大雨や台風により全国的に大きな被害が発生しています。もしものときに、自分や大切な人を守るために、今できる「災害への備え」を確認しておきましょう。

問い合わせ 危機管理室 (☎ 0866-92-8599)

01、平常時に避難先や連絡方法を確認しておく

避難場所やルートを確認

ハザードマップで、自宅や親戚の家などが洪水や土砂災害の危険がないかを確認しておきましょう。実際に避難することを想定して、日頃から避難場所やルートを考えておくといでしょう。避難場所は、学校や公民館などだけではなく、安全が確認できれば、親戚や知人宅、ホテルなども有効です。さまざまな避難の形を検討してみてください。ハザードマップは、市ホームページからダウンロードすることができます。

ハザードマップのダウンロードはこちら



市 HP

家族や地域での連絡方法を確認

家族とはぐれた場合の連絡手段・集合場所や地域での緊急連絡体制などを、事前に決めておきましょう。災害発生時に円滑に情報伝達・安否確認ができるよう備えておけば、いざというときの落ち着いた行動につながります。



非常持ち出し品を確認

避難所で2～3日過ごす想定で、家族構成を考えて必要な分を備え、いざというときにすぐ持ち出せるよう、まとめておきましょう。

非常持ち出し品の例

- 食料品、飲料水
- 携帯電話充電器、モバイルバッテリー
- 医療品 (消毒薬、ばんそうこう、包帯、常備薬、お薬手帳など)
- 貴重品 (預金通帳、印鑑、健康保険証など)
- 現金 (小銭含む)
- 衣類 (雨具、下着、防寒着、タオルなど)
- 懐中電灯、電池
- ヘルメット、帽子
- 軍手、手袋
- ウェットティッシュ
- 洗面用具
- マスク、体温計、アルコール消毒液、せっけん (ハンドソープ) など



※乳幼児や妊婦、要介護者など、各家庭の家族構成によって必要なものは異なります